

2023年末 槍ヶ岳 山行報告



【課題】 中崎尾根から槍ヶ岳山頂 厳冬期 北アルプスの3,000m峰に挑戦する

【日程】 2023年12月27日(水)～12月31日(日)

【参加者】 土橋、中山(報告者)

【装備】 ロープ30m スノーバー 4人用テント スコップ ガス4本 コッヘル1L
デジタル簡易無線機 アイゼン・ピッケル等厳冬期装備

【スケジュールと行動内容】

■12月27日(水)

夕刻 北九州発 高速(山陽・名神・東海北陸道)にて高山へ

■12月28日(木) 天候 晴れ

7時20分 新穂高発 → 12時 槍平 → 15時15分 2388m幕営適地のひとつ先のピーク(幕営)

新穂高から槍平まではしっかりとトレースがついており、つぼ足で行けた。思いのほか早く槍平まで来て時間が余っており、中崎尾根方面にもトレースがあったため、2人で協議して2388m幕営地点まで前進することした。土橋さんの提案で忠実に夏道ではなく飛騨沢を少し進んでピーク手前から尾根に直登。2時間程のラッセルで目的地付近についた。幕営適地のひとつ先のピークだったが、十分な広さがあった。整地してテントを張る。夕食を摂り、19時前には就寝。夜が更けるにつれ風が強くなり、予報どおり天気は悪い様子だった。

■12月29日(金) 天候 曇り後晴れ

7時15分 幕营地発 → 10時 千丈乗越 → 14時15分 槍ヶ岳山荘 → 15時過ぎ 槍ヶ岳山頂
→ 16時30分 槍ヶ岳山荘 (冬季小屋泊)

朝5時に起床して朝食を摂りテントを撤収。出発時は曇り空でトレースが消えており降雪があったようだ。つぼ足で進むが、所々で膝下のラッセルがある。長くは続かず小一時間ほど歩いたところでクラストきて、アイゼンを装着。尾根を右にトラバースして所々雪に埋まるが、概ね快適歩行で、10時には千丈乗越に到着。今年は雪が少なく雪崩の心配は全く感じられなかった。予想よりも速いペースでこれであとは西鎌尾根をつめるだけである。気持ちに余裕ができる。少し休憩をいれ景色を堪能する。

西鎌尾根は最初は単調なザレ場だが、急に岩壁が立ちはだかる。昨日、テン場ですれ違った人が「西鎌尾根はアイスバーンのトラバースがあってダブルアックスで降りてきた」という話を思い出した。大げさな話だと笑っていたが、直登はRCCグレードで3級下はありそうな岩場だ。ただロープを使うという話は聞いたことはない。土橋さんが直登を探るが良く分からないようだ。私も探ってスノーバーが岩の隙間に打ち込まれて残置されているのを見つけた。ただ、その先も支点も見つからないし、たぶん、我々のように迷って下降のために打ったのだろう。結局岩壁を右に巻くことにした。残置スノーバーで懸垂下降し、アイスバーンをトラバースした。結果は正解だったが、アイスバーンはテラテラで、傾斜はきつくないが、重荷であり今日の雪質だと下まで止まらない。ワンミスで命取りになるので、ピックと前爪を使って蟹歩きで慎重に通過。この山行の核心だった。それを過ぎるとしばらくラッセルして稜線に出た。深くはないがこれが結構堪えた。

山荘直下に再び岩壁があり、ログでルート確認するものの見誤り、岩壁の右へ往復して余計な体力を使ってしまった。土橋さんのルーファイで岩壁左を行くと、すぐに槍の穂先と山荘のコルに出た。ここで14時過ぎ。槍ヶ岳アタックには十分時間がある。荷物を冬季小屋に置き、空荷で15時過ぎに登頂。よく晴れ渡り最高の景色を堪能できた。トレーニングのきつさも一瞬で忘れるほどの素晴らしい絶景。記念撮影をして、10分ほど山頂にいた。道が氷化していたため、ロープを5回ほど使った。

16時半には冬季小屋に戻り、寝床をこしらえる。小屋の中はとても快適で厳冬の3000mにいたとは思えないほどの温かさだった。この日も19時過ぎには就寝。我々の他に3パーティ程が小屋にいた。

■12月30日(土) 晴れ

7時 槍ヶ岳山荘発 → 9時半 槍平 着発 → 13時過ぎ 新穂高着
新穂高で入浴後、高山市内のファミレスで食事。その後 高速へ

朝4時半に起床。食事と排泄を済ませる。小屋の中にトイレがあるのはありがたい。日の出に合わせて出発。飛騨乗越から飛騨沢へ下降。カリカリのアイスバーンのため、慎重に下る。150m程下ると雪がしまって安定した。たくさん登山者が登ってくる。飛騨沢は冬季の登路ではないが、今年は条件が良かったのだろう。槍平に到着するも休憩もそこそこに新穂高に下山。終始天候に恵まれ素晴らしい山行だった。

下山後は中崎山荘で入浴。その後、高山市内で食事を摂り、一路、高速で北九州へ

■12月31日(日) 雨

朝3時過ぎに北九州へ到着。小雨が降る北九州だった。

【所感】

北アルプスの3000m峰は気象条件がとても厳しい山だ。3年前に挑戦した槍ヶ岳だったが、そのときは簡単に弾かれてしまった。その後、北岳、塩見岳と南アルプスで経験を積み、天候にも恵まれ、無事に登頂することができた。

今回の良かった点は登頂にこだわり、当初の横尾尾根ではなく、より難易度の低い中崎尾根を選択したこと。重量を制限して中山17kg程度、土橋さん22kg程度と軽量化できたこと。計画よりも状況を優先して時間に余裕が持てたことがあげられると思う。また、反省すべき点は、難易度が下がったことにより、十分な下調べをしていなかったため、2回程、ルートミスをしてしまった。入山前を含め、5日間の好天が続いたこと。様々な好条件が続いて幸運だったと思う。

今回も同行してくれて荷物を担いでくれた土橋さん。山の会に入るときに槍ヶ岳を勧めてくれた岡村さん、ザイルは必ず持つようにと助言してくれた久保さん、登るだけではなく降りることも考えろと助言してくれた毛

利さん、他会ながら、雪山に関する情報や助言をしてくれた溝尾さんや加藤さん、みなさんのおかげで念願の槍ヶ岳に登頂することができた。体力の低下はあるが、トレーニングに改良を加えてもう少し冬山を続けたいと思う。



槍ヶ岳ルート図(山と高原地図より引用) 新穂高温泉より右俣林道を歩く



登山口にて



樹林が見え雪は少なめです



中崎尾根に向かってラッセル



中崎尾根に上がった土橋さん



(上)2日目の朝、トレースは消えていた
(右)千丈乗越に向かって前進



休憩を入れる土橋さん



来た道を振り返ると雲海が広がっていた



千丈乗越に到達



あとは西鎌尾根を詰めるだけと思ったのだが



西鎌尾根では意外と苦戦を強いられた



絶景に励まされる



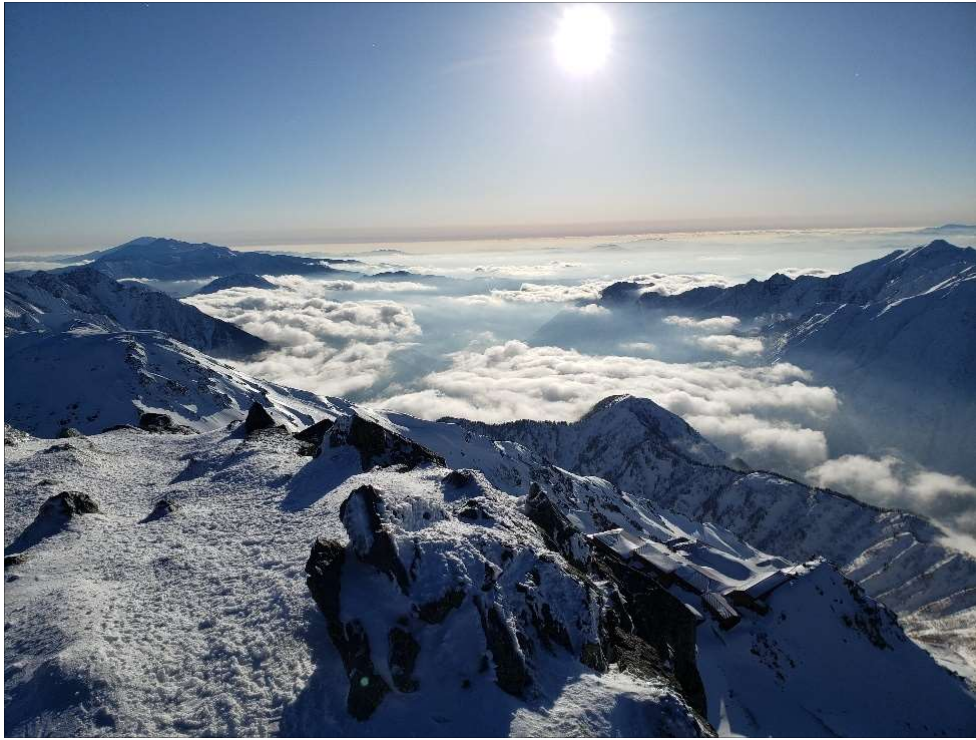
槍ヶ岳山荘はもう少しだ



槍の穂先を捕らえる



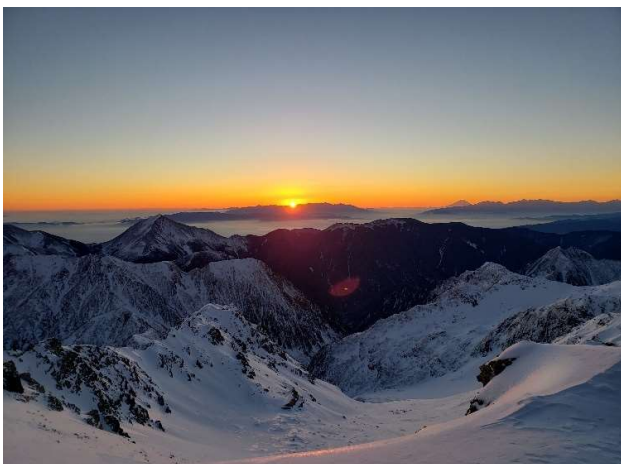
ついに登頂しました



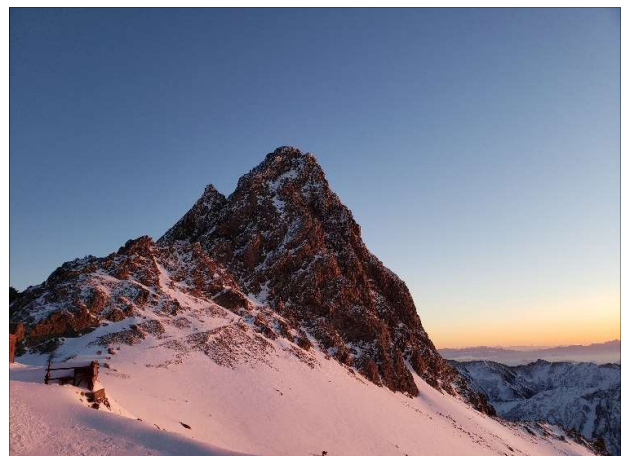
槍ヶ岳山頂より



下りも慎重にロープを出して下りました



槍ヶ岳山荘より日の出



朝日に照らされる槍ヶ岳